

pen

with New Attitude

11/15

2015 No.548

特別定価 650
yen

わがままに暮らしたい。

こだわりの住まいとインテリア



家の中のコンテナで、非日常にトリップ！



オレンジのコンテナの上には大きなクッションが敷かれ、ふたりは夕方ここで、互いに1日の報告をする。コンテナの搬入の際には屋根を壊し、クレーンで設置したそう。

アートコレクターであり、主要顧客たる若きIT長者たちにアートのコンサルティング&アドバイザーをしている、ジェフ・ワードルとパートナーであるプロデューサーのクラウディア・サガン。6年前に中国人経営のランドリーと歯磨き粉工場だった古い倉庫を1棟まるごと購入。約10カ月の大規模リノベーションを施したのがここだ。

コンセプトは「巨大なアートを飾れる壁」。総面積は300㎡。まるでミュージアムのように広々とした空間の壁一面には、新進気鋭のアーティストJRやオス・ジメオスらの巨大な作品が飾られている。

仕事柄、彼らの「家」は、ときに全体が「ショールーム」と化す。定期的にアート関係者を招いてワークショップが行われたり、デイスカッションも繰り広げられる。プライベートとパブリックスペースの線引きは曖昧だが、大きな扉を閉じると一転、プライベートを確保できる造りに工夫してあった。

オークランド港でひとつ1400ドルで購入しました。安いでしょうか？(笑)下のコンテナはゲストルーム。若い頃オスロからハンブルグまで寝台列車で旅した際に見た取納ベッドや、タスマニア島のリゾートホテルのバスルームからアイデアを得たこだわりの作です。上のコンテナは、僕のオフィススペース。ここでは、アートコンサルタントや、現在ニュージーランドで進行中の「アート・ブティック・ホテル」プロジェクトの構想に時間を費やしています」とジェフ。

四方の窓から明るい光が差し込み、家の中や外の景色も見えるため、「鉄の箱の中にある閉塞感」はまったく感じない。何よりも「自分のオフィスがオレンジのコンテナの上にある！」と感じるだけでクリエイティブになれるとジェフは言う。

気分転換にオレンジのコンテナ上に寝そべったり、読書をしたりもするそう。その気分はと尋ねると、「最高！」とほほ笑んだ。

「パーティでは家中を開放します。その時は、ゲストもオフィスやコンテナの上など、思い思いの場所で自由にくつろいでいますよ」とクラウディア。

居住空間が多目的に変貌するアーティな空間。彼らのセンスが作り上げた非日常が融合し織り成す、なんともユニークなロフトだ。

真ん中に突如登場する、重なり合う2つのコンテナ

そんな多目的大空間の目玉が、空間の中央に置かれた青とオレンジの巨大コンテナだ。

マスターベッドルーム内には、アイトともに彫形のバスタブを設置。居住空間の隅々までアイトとセンスを凝らにあふれる。



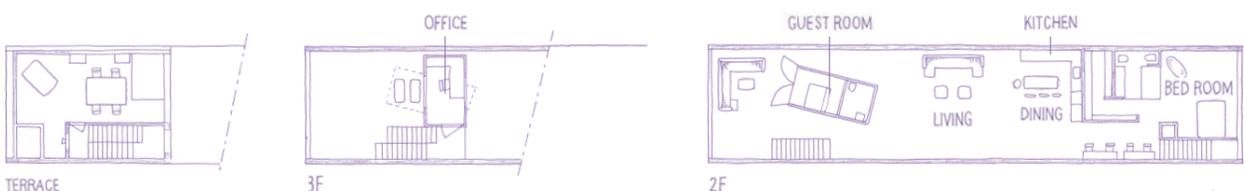
下のコンテナ内にはゲスト用のベッドとバスルームが、スイッチひとつで側面ガラスがクリアからスモークに変化する。



上の青いコンテナはジェフのホームオフィス。上部には天窓があり、屋上から中が覗ける。簡易ベッドは昼寝と読書用。



普段はカウンター、くつろげる大きなダイニングテーブルに早変わり！多目的空間に役立つユニークな可動式テーブル。



DATA | ●構造と規模/コンクリート造3階建の倉庫の2階部分とテラス。●延床面積/300㎡(2階部分)50㎡(テラス)